

平成22年度総会が開催されました

6月28日（月）平成22年度総会が開催されました。

今回の総会は、21年度に浜田市から委託を受けコーディネーターとして職員2名を任用し、新体制で臨んだ年ということでこの一年間での職員の活動報告を中心に会員規約の改正、役員改選等、約3時間に渡り、活発な協議が行われました。

出席いただいた会員のみなさま、長時間ありがとうございました。

【第2期役員】

会長：吉田 友香（留任）
副会長：徳田 勇人（新任）
事務局長：川神 由理（留任）
監事：長澤 規史（新任）



※副会長は、書面にて厳正なる審議を諮った結果、賛成多数で徳田氏の就任が決定いたしました。

新規会員さんが加入しました!

えにし さとみんばくとも かい
～ 縁の里民泊友の会 ～



「心に残るおもてなしを！」をキャッチフレーズに

地域の農家の方々に結成されたグループです。

ここでは農業を基盤とした観光交流の里づくりをしています。

地域の自然や文化、暮らしにふれて新たな交流が生まれます。

それぞれ個性豊かな民泊6件で形成されているグループの加入

は、今後のツーリズム活動に大きな力となります。一緒に盛り上げ

ていきましょう。どうぞよろしく願いいたします。

【おすすめ体験】

水田を利用した農業体験

歴史文化の紹介探訪ツアー

【縁の里民泊友の会メンバー】

- きんもくせいの宿（加納美代子）
- 院 居（塚本朝代）
- 澄 川（澄川秋代）
- せきのほら（榎田浪子）
- 横 山（横山千代美）
- 水車の宿（岡本千恵子）

■ 宿泊体験料 一律6,500円

■ 受入時期 通 年

活動報告



【子どもたちと一緒に地引網を体験してみませんか】

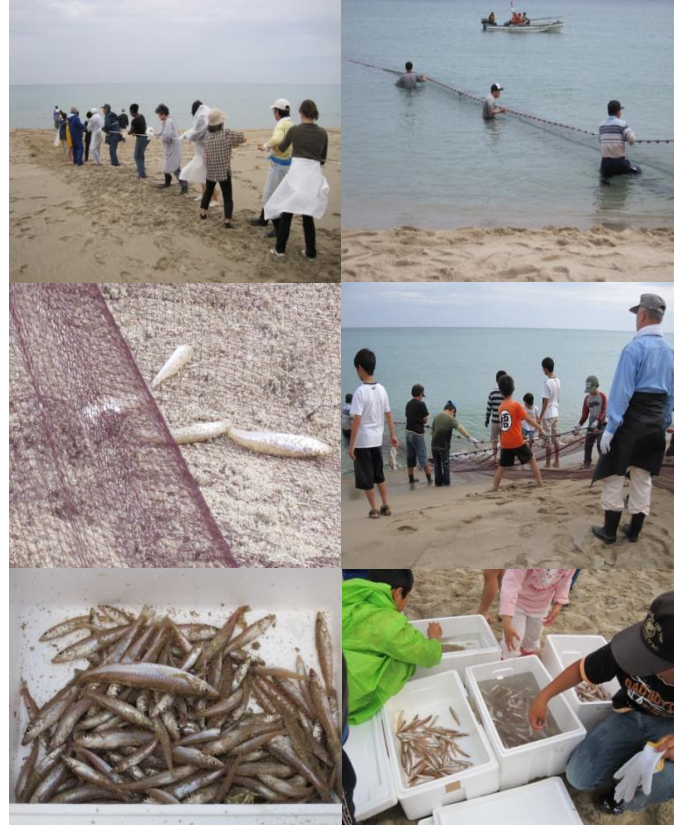
6月13日(日)、浜田公民館&石見公民館の主催で開催されました。前の晩から降っていた雨でしたが、当日は小雨となり、無事に開催できることとなりました。

今回の地引網体験は、あらかじめ仕掛けた網のたもとをみんな力で合わせて引っ張る、昔ながらの手法で行いました。左右に別れ、一生懸命網をひくこと約一時間・・・。

網に魚が掛かっているのを見たときは参加者一同大喜び♪ 今回の収穫はキスゴ約100匹と、ヒラメ、カニ、イダコが少々。子供たちはピチピチの魚を見て触って大満足な様子。中には「家に持って帰って飼育しよう。」という子もいましたよ(^)♪

早朝からの体験でしたが、爽やかな潮風が心地よくとても楽しい時間となりました。

地引網のご指導とご協力を頂きました久代浦恵比寿講の皆さん、素敵な体験をありがとうございました。



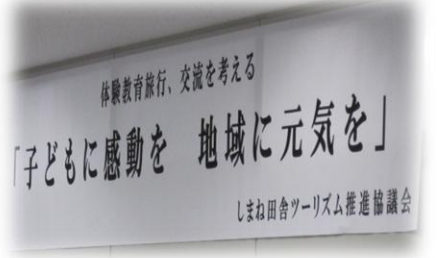
【第4回しまね田舎ツーリズム県内研修会】

子ども田舎体験学習旅行：『子どもに“感動を” 地域に“元気を”』

7月6日(火)、浜田合同庁舎504会議室にて子どもプロジェクトを受け入れる地域対象の研修会が開催されました。

今回の研修会では講師に中国四国子ども農山漁村交流プロジェクト推進協議会会長の前田幸利氏(農協観光岡山支店)、まちむら交流機構 地域活性化部次長の花垣紀之氏を迎え、体験教育旅行における交流の魅力を語っていただき、子どもたちを受け入れるための心構え、体験学習に期待すること、受入れにあたって留意すべきことや安全対策などについて学びました。

お二人の講演の後は、毎回お楽しみのふるさと島根定住財団の有馬さんの司会でトークディスカッションが行われました。有馬さんから、今回の講演内容に沿ったトークを交えつつ参加者のみなさんに問いかけると、これから子どもプロジェクトを進めていく上での疑問や不安点などが飛び交い、大変参考となった研修会でした。



☆研修会の様子



☆前田幸利氏講演の様子



☆花垣紀之氏講演の様子

イベント案内

☆もうすぐ夏休み！楽しい体験イベントが盛りだくさんです。

【体験活動サポートセンターやさか村】

毎回楽しい体験活動を用意しているグリーン・ツー・ネットさん。
今年も夏限定の体験イベントをたくさん企画しています。



『夜の海観察会』7/3(土)～ 神秘的な夜の磯を体験してみませんか。昼間とは違った夜の生物を観察します。
『親子キャンプ・休日キャンプ』7/31(土),8/1(日) 親子でのんびりとした休日を過ごしてみませんか？
『休日キャンプ』8/21(土),22(日) 子どもたちに自然体験・食農体験・自給型キャンプ体験を提供します。
『食農体験』7/3(土),17(土),24(土),8/7(土),28(土) 自然に育てられた有機野菜を調理してみましょう。

お申込み・お問合せ TEL0855-48-2456 グリーン・ツー・ネット三浦さん

【ゆう番地：七輪持って大集合！】“今日、私は漁師さん&コックさん” 7/25(日) AM6:30～ 浜田漁港4号6号市場

港に夏がやってくると同時に開催される、ゆう番地こと岡原さんの大好評企画です。
浜田港の魅力を岡原さんならではの企画でみなさんにお届けします。
今年も参加希望が定員人数よりも大幅に超えてしまった大人気のイベントです。
心地よい潮風を感じながら“港町浜田”をまるごと体験してください。



お問合せ TEL: 0855-22-2937(昼) ゆう番地 岡原さん

【はまだ自然冒険村2010】

今年も子どもたちだけで自然と文化のふれあいを体験できるドキドキ・ワクワクの7日間がやってきました。浜田の自然の中で仲間と過ごす6泊7日は学校では味わえない、感動があります。

期 間：8月1日(日)～8月7日(土) (6泊7日)

対 象：小学4年生～6年生

主 催：ふれあい総合農場しまね

参加費：35,000円

(滞在費、活動費、傷害保険料、消費税が含まれます)



♪いい湯だな♪♪
ドラム缶風呂って
気持ちいい～

お申込み・お問合せ 0855-27-0989 ふれあい総合農場しまね 佐々木さん



～研修&視察報告～

【浜田市ツーリズム協議会県外特別研修会】～熊本県人吉 ひまわり亭～

☆6月20(日)21(月)、熊本県人吉市にて当協議会の県外研修を行い、ツーリズムの先進地の視察を兼ねて現地で勉強をしてきました。

今回の研修会は、かねてより現地視察の要望が多かった熊本県の人吉・球磨で農家レストラン「ひまわり亭」

オーナーの^{ほんだせつ}本田節さんのもとで行いました。この2日間の研修内容はすべて本田さんにおまかせし、ご自身の講演をメインに人吉・球磨の歴史や文化、地元の人々との交流などのコーディネートをして頂きました。参加者は11名と少人数でしたが、浜田市ツーリズム協議会にとっても今後のツーリズム推進活動において大いに役立つ研修内容で参加者一同、とても充実した2日間となりました。

熊本県人吉市：熊本県南部にある人口約4万人の街。九州山地に囲まれた盆地は、人吉・球磨（人吉市を含む10市町村）と呼ばれ、最上川・富士川とならぶ日本三大急流「球磨川」を擁しています。人吉市はこの中心地で、人吉藩相良氏の城下町として栄え、至る所に歴史の風情が残っています。

人吉・球磨では、この恵まれた自然、歴史、文化を有効活用したグリーンツーリズム事業を推進し、地域の活性化を図っています。球磨地方10市町村がそれぞれの特色をもった取組みを展開し、地域一体となった“まちづくり”を実践しています。



☆移動中のバスの風景です。



☆人吉市へ到着しました。



☆“やまえのまんま”でお昼ご飯♪

時代の駅むらやくば 昭和12年に建築された旧山江村役場は、昭和56年に現在の新庁舎に移転されるまで山江村の中心施設として利用されてきました。移転後は、中央公民館として利用し、村民に愛されてきましたが、老朽化が進んだため全面改修され、平成18年4月に都市と農村を結ぶ交流の拠点施設『時代の駅むらやくば』として生まれ変わり、現在も村内外の人々に愛され続けています。

この施設内に、山江村の郷土料理を地元のお母さんたちの手で食事を提供している農家レストラン“やまえのまんま”があります。料理に使われる材料は、山江の地産を中心にできるだけ地元に近い範囲で生産されるものを使用しています。

山江村では『山江グリーンツーリズム研究会』を中心に、美しい川や山の緑に囲まれた自然の中で昔ながらの豆腐作りやこんにやく作りなど山江村ならではのグリーンツーリズムに取り組んでいます。

また、走る産業遺産「ボンネットバスマロン号」をイベント等に活用した町おこしを実践したり、利用が減少してしまった路線バスのかわりに乗合バス『まるおか号』を運行し、少子高齢化対策にも力をいれている元気な村です。



☆時代の駅むらやくば



☆ボンネットバス『マロン号』



☆“やまえのまんま”

農家レストランひまわり亭

“食”“農”を地域資源とした拠点として、郷土の家庭料理を提供しているのが、ここ「ひまわり亭」です。約20年ほど前、一人暮らしの高齢者に声かけを兼ねた手造り弁当を宅配するボランティア活動をはじめた、地域の主婦たちのグループ「ひまわりグループ」のおかあさんたちがレストランを運営しています。現在もこのお弁当宅配活動は続いています。

お料理大好き♪おしゃべり大好き♪人のお世話大好き♪の主婦たちのグループ「ひまわりグループ」は、高齢者へのお弁当宅配のほかにも地域で開催されるイベントに手作りのまんじゅうや団子汁、お煮しめを作っては参加したりしていました。地域に貢献した様々な活動をしながら「今のままでも楽しいけれど、もっと生涯現役で、もっと生きがいとなることをやりたい!」という話が出るようになり、みんなで「よし、レストランをやろう!」と決意し、平成10年に現在の“ひまわり亭”が立ち上がりました。この「ひまわりグループ」を結成し、ボランティアやまちづくり活動を始められ、“ひまわり亭”を立ち上げたオーナーが**本田節さん**です。

本田さんはおしゃべり大好き!おせっかい大好き!お料理大好き!
そして人間大好き!のふるさと大好き人間。

年間の半分近く全国を講演等で走りまわっている、笑顔のすてきな
元気なお母さんです。

本田さん率いる“ひまわり亭”を中心に人吉・球磨では、地産地消
「食」のネットワークでまちづくりを実践しています。ここで活躍
しているのも地元のお母さんたち…「もったいない」を合言葉に生涯
現役をめざし、大好きなふるさとを盛りあげています。



☆球磨川を臨む『ひまわり亭』と本田節さん

【故郷人吉球磨の“もったいない”】

- 人 : 地域の財産「おじいちゃん、おばあちゃんの知恵・経験・技・感性」がもったいない。人こそ資源。
- 歴史・文化 : 地域の歴史や文化がもったいない。歴史・文化の伝承。
- 自然・風土 : 地域の素晴らしい自然や風土を生かさないともったいない。環境保全。
- 食 : 地域の素晴らしい食材もったいない。食を中心とした産業（農・商・工・観光）連携。

主婦のボランティアから始まった活動が地域に広がり、全国に広がり、今ではグリーンツーリズムの先進地として各地から多くの観光客が何度も訪れています。本田さんたちの観光客に対するおもてなし、ふるさとに懸ける情熱・思いは心に響き、感動します。ふるさとをこよなく愛し、人と人とのつながりを大切にすることが町を元気にさせるということ、元気な町には人が集まってくるということを実感しました。

「ひまわり亭」をはじめ、人吉・球磨地区には元気があります。この元気とパワーが観光客を呼び、リピーターを多くしているのです。

私たちは今後の課題として「まちづくり」を真剣に考えていく必要性があります。地域一体となったツーリズム事業の推進をしていくことで、町の活性化を図りたいと思いました。



☆研修会の様子。ひまわり亭では若い
人材の育成にも力を入れています。



☆ひまわり亭で夕食の宴。
“地産地消”の郷土料理を堪能しました。



☆球磨焼酎で有名なまち。
焼酎ミュージアムにも行ってきました。

農家民泊 人吉市を含む球磨地域においては、平成 15 年に「森林の郷（もりのくに）農林業げんき特区」の認定を受け、グリーンツーリズムの推進による地域農業の活性化を行っています。豊かな自然、歴史、文化などの資源を有効活用しながらグリーンツーリズムを定着・発展させ、地域の活性化を図る目的で農家民宿の拡大に取り組んでいます。現在、人吉・球磨地区では6軒の農家民泊があります。

研修の参加者 11 名が5軒の農家民泊にわかれて宿泊し、先進地ならではの取組みを実体験してきました。今回の研修は、民泊での農業体験はできず短い滞在時間でしたが、それぞれの民泊の方々心のこもったおもてなしを受け、参加者一同大満足の体験になりました。



つばき坂



なごみの里



『別てんち』ふるさと



嵯峨の里『古時香』



涼水戸の宿



しろうさぎ

青井阿蘇神社 青井阿蘇神社は、806年に創建され、球磨地方の鎮守として信仰を集め、中世以降は人吉城主相良氏の氏神となり、現在の社殿は江戸時代初期に建立されました。黒塗りで傾斜が急な萱葺（かやぶ）き屋根に極彩色を用いた装飾性の高い彫刻や模様の特徴がある桃山様式で、本殿、幣（へい）殿、拝殿が連なっています。北側から南に本殿、廊、幣殿、拝殿、楼門、五棟一連の御社殿は相涼 20 代長毎（ながつね）が江戸時代はじめの慶長 15 年（1609 年）から 18 年の 4 ヲ年にわたり造営したものです。本殿をはじめ一連の御社殿がすべて同時期のあるもので、平成 20 年 6 月 9 日に熊本県に所在する初の国宝となりました。



☆神社周りの風景。
小京都と呼ばれる風情ある街並みです。



☆国宝！青井阿蘇神社
茅葺の屋根に癒しを感じます。



☆宮司さんが特別にガイドをしてくださいました。

かじやまち
鍛冶屋町散策

小京都と呼ばれる人吉市の中心部に位置する鍛冶屋町。相良藩時代、66軒の鍛冶屋が軒を並べ、

刃物や銃、農具などの一大産地でした。今も2軒の鍛冶屋が残り、昔の面影を残す職人の町として親しまれています。しかし、近年大型複合店舗などの参入により職人の町としての伝統や風情ある街並みがどんどん変わっていききました。

どこか懐かしさが残るこの街並みと人吉に伝わる“ウンスンカルタ”を保存し守っていかうと『鍛冶屋町通りの街並み保存と活性を計る会』を結成され、地区に残る伝統文化の維持・継承していくまちづくり活動を活発に行っています。

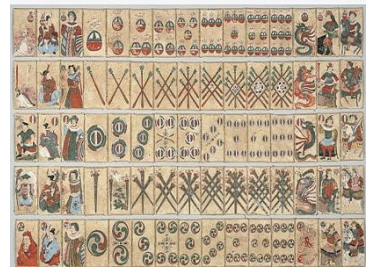
ウンスンカルタ：16世紀半ばの元龜・天正（1570～92年）の頃、肥前（長崎）大村藩に來航したポルトガルの船員たちから「南蛮カルタ」と呼ばれるカード遊びが日本人に伝えられました。その後、カルタ遊びは改良をかさね、17世紀後半の元禄の終わりから宝永のはじめ頃に『ウンスンカルタ』が生まれました。カルタ遊びは、日本中で流行しましたが、寛政の改革（1787～93）のとき、一切の遊興が禁止されました。それに伴い、カルタ遊びも全国的に弾圧されましたが、不思議なことに日本中でただ一ヶ所、人吉・球磨地方だけにこの遊びが残り、今日まで伝えられています。



☆鍛冶屋町通りの街並み



☆ウンスンカルタ石碑



☆ウンスンカルタ 75枚

みそ・しょうゆ蔵：釜田醸造所は創業から続く、自家製天然もろみにこだわって、醤油・味噌を醸造しているお店です。およそ100メートル続く蔵は、醤油、もろみの室、2メートルの圧力釜、味噌を寝かす石造りの室などを見学できます。見学後は大正時代に桜の木を使って建てられた休憩処でお茶がふるまわれ、醤油や味噌を使った佃煮・みそ漬けなどを試食できます。



☆釜田醸造所で工場見学。



☆もろみ室。醤油のよい香りが辺り一面に広がっています。

茶の蔵：立山商店は明治10年創業のお茶屋さん。歴史を見守ってきた地区100年の店舗は優しくゆったりとした時間が流れています。地元で採れたお茶やしいたけなどが販売され昔ながらの味を守っています。店の裏には釜炒りの製茶工場があり、店内はお茶の香りに包まれています。併設しているギャラリーでは、茶壺や茶器が展示され、お茶も振舞われています。地域の伝統文化であるウンスンカルタも展示されていました。

ギャラリーの壁はお茶の茎が混ぜられているので、吸湿性が高いとのこと。ここでは人吉・球磨の陶芸家、ガラス工芸家の作品展示販売もしています。



☆茶の蔵での風景。お茶の香りに癒されます。



☆お茶の茎が混ぜられた壁。

【本田 節さん講演：グリーンツーリズム事業の推進について】

★グリーンツーリズム・・・緑豊かな農山漁村で、その自然・文化・人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動
例：農家民泊・農村民泊（商家、漁家）、農家レストラン、体験（農林漁業体験など）

★ツーリズム事業を実践することによって期待される効果

地域住民（農山漁村）・・・感動、喜び、生きがい、地域振興、副収入、地域資源の活用など

都市住民・・・感動、喜び、心身の癒し、健康回復、体験学習、第2のふるさと など

★ツーリズムビジネスのキーワードは「食」業

「食」業・・・「食」に関わるあらゆるビジネス

例：農林水産物の生産、農産加工、直売所、農家レストラン、農家民泊、ワーキングホリデーなど。

・近年農林水産業は、「食」業やグリーンツーリズムの推進など多角化しています。近年活発な農村女性による朝市や直売所、農産加工などの職おこしは地域が元気を取り戻し、新たなる展開へ進んでいくことにおいて重要な役割を担っています。もともと農山漁村の女性たちは「食」業の達人でした。祭事、冠婚葬祭は手作りの饅頭などでおもてなしをし、梅干しや味噌、漬物づくりなどは当たり前のように作られていました。これらの食品加工は農山漁村の女性たちにはお手のものなのです。また畑で採れた野菜などを行商や市場に売りに行くのも女性たちの役目でした。そう、「接客」も超一流。食生活の全てに関わる日本最古のキャリアウーマン、それは「農村（漁村）女性」なのです。

農村女性 （漁村）

1. 「生産～加工～販売」の一貫経営という「食」業の達人
2. 女性たちの手練れの技（食の名人さん）
3. 女性や高齢者も経済的活動による自立が必要な時代.
4. 農村（漁村）女性の経験・知恵・技・感性は何も代え難い
5. 家族の地域の「安心・安全」を願い「食」の営みを担う

・ひまわり亭は、地元の主婦、高齢者を起用し「安心・安全」「地産地消」をモットーとする農家レストランです。

★「食による地域再生事業化」3つの条件

1. 個人として納得のいく生き方の追及
2. 社会の抱えている矛盾の解消に立ち向かおうとする姿勢
3. 事業性と共益性のバランスをとり、コミュニティビジネスを成立させる→社会を変革するビジネス

・グリーンツーリズムは単独の活動ではなく、多面的な活動といえます。この多面的な活動は5つのKに密接につながっています。

5つのKとは・・・ 高齢者問題・教育・環境・暮らしと観光・健康 広い意味で捉えることが大切！

●グリーンツーリズムの先進地と呼ばれている人吉・球磨は、地域が一体となって町おこしをしています。

本田さんたちひまわり亭のお母さんたちも“食”“農”を地域資源とし、地産地消による食を通じた地元の情報発信拠点として地域に貢献しておられます。主婦たちの町おこしから発展したひまわり亭はいま、コミュニティビジネスの先駆的モデルとして注目を集め、全国から交流や施設などで年間5万人が訪れるまでになりました。

本田さんは、ふるさとの自然・文化・伝統を自分たちで守り、次世代の人たちに伝えていくこと、何より自分たちのふるさとに誇りをもつことが大切であるということを強く語っていました。

地域の自然を愛し、地域の人たちを愛し、ふるさとの伝統や文化を愛し、そして多くの方々にふるさと浜田を愛していただきたい…町おこし・町づくりはふるさとを愛することから始まるのだと再認識できた心に残る研修会になりました。

私たちの活動において町おこし・町づくりはかかせないものです。人吉・球磨に劣らない海・山・川の大自然のあふれる素敵な田舎町“浜田”を体験型観光地として、何度も訪れていただけるような魅力ある町づくりを目指して、今後も活動していきたいと思えます。